

「コドモト」を立ち上げたきっかけは、もともと外出するのが好きなタイプでした。子どもができてからは、自分の住む地域で、子どもと一緒に出かけられる場所を探しましたが、なかなか見つからず苦労しました。「明日は子どもと何をして過ごそう?」と思い悩む日々が続き、子どもと行ける居場所がほしい、子どもと出かけるときに必要な情報がインターネットで手に入ったらいいの、と考えました。プログラミングが得意だったこともあり、ウェブサイトの構想を練り、ママ友に声をかけ、活動を始めました。サイト立ち上げから2年後の2019年にNPO法人となりました。

—どんな活動をしていますか—

コドモトの方針に共感して集まってくれたメンバーが、それぞれ持っているスキルや子育て経験を活かして「情報発信」「場づくり」「防災」の三本柱を掲げて活動しています。コドモトのウェブサイトでは、公園や商業施設などのお出かけスポットを、授乳やおむつ替えスペースがあるか、近くで食べものを買える場所があるかなど、子ども連れならではの視点で紹介しています。ほかに、近隣で開催される親子向けイベントの情報を集めたり、子育て家庭向けの防災、先輩ママの園選び体験談など、子どもがいるからこそ知りたいことを記事にしたりしています。

コドモトが発行している『親子のための防災ハンドブック』地域子育て支援拠点などを通して配布中。



オンライン版はこちら



また、横浜市港南区を中心に、毎月、親子で楽しめるイベントを企画運営しています。防災に関する講座やワークショップは、横浜市内だけでなく、さまざまな場所で開催してきました。

イベントに集まった親子が楽しそうな笑顔を見せてくれたり、掲載している施設に子育て世帯の欲しい情報や子育て中ならではの困りごとを共有することでサービス内容に変化が起きたり、やりがいを感じています。

—これからの展望は—

「コドモト」を見れば、地域の子育てについて何でも分かると言えるように、これからもウェブサイトを作りこんでいきたいです。サイトで情報を集め、こういう場もあるんだと伝えることができれば、コドモト主催のイベントだけでなく、地域の居場所が活性化することに繋がると考えています。さらには、出会いの場が広がり、子育て世代だけでなく、まちのいろいろな人同士の関わり合いができれば、地域の防災にもなります。必要な人に必要な情報を届けられるように、活動を続けていきたいです。

NPO法人コドモト代表理事
上岡朋子さん



【プロフィール】

港南区在住で10歳と8歳の女の子を子育て中。ウェブ制作や英会話教室の運営など経営者としての一面も。

まちの子育て情報サイト「コドモト」



インタビュー
まちすき♡

季節と暮らそう
春のお届け便

「横浜市こども植物園」より、季節の植物を紹介します。

種から育てよう

マリーゴールド



メキシコ原産のキク科の1年草。オレンジ色や赤、黄色などの花が、初夏から秋までの長期間楽しめるので、花壇には欠かせない植物です。暑さにも強く、日当たりと風通しが良い場所なら丈夫に育ちます。種まきの時期はまさに今。種を蒔いて1週間もすれば発芽します。3~4cmほど伸びたら間引きし、しっかりした苗を残します。10cmまで育ったら、花壇や鉢に定植します。丈夫なマリーゴールドですが、蒸れたり用土の水分が多すぎると枯れやすいので定植後は注意してください。長く楽しむための手入れのコツは、終わった花をすぐに摘み取ること、花が少なくなったら枝を切り戻すことです。主な品種としては、大型のアフリカン・マリーゴールド、小型でより丈夫なフレンチ・マリーゴールドがあります。

(緑の相談員・速水善浩)

【問い合わせ】 横浜市こども植物園 入園無料
南区六ツ川3-122 ☎045-741-1015 開園時間9:00~16:30

※園内で開催している子ども向けイベントをベイ★キッズLINEでお知らせ。LINE登録は4面を見え。

身近でできるSDGs

このコーナーではSDGsの17の目標に向けて身近にできることを紹介していきます。今回は子育てインフラに取り組む企業の製品を紹介します。

設置型ベビーケアルーム「mamaro™」



この箱のようなものを見たことがありますか?これは授乳や搾乳、おむつ交換等が行える設置型ベビーケアルームです。授乳室検索アプリを開発し運用していた長谷川さんが、社会のインフラとして授乳室そのものが不足していることに直面し、自らデザインを手掛けて開発を行ったものです。今まで授乳室がなかった施設に設置しやすいよう、1畳程度のサイズで工事不要で設置できるのが特徴です。2023年3月末日までに全国に500台導入されてきました。

◆男性の育児参加を応援

施設にある授乳室はセキュリティの観点から女性専用のところが多く、男性がミルクを与えるスペースやおむつ交換等を行う場所に困ることも多いです。その点、mamaro™は完全個室のため、男性でも気兼ねせずに利用することができます。



横浜市内の設置場所

区役所(中区・鶴見区・泉区)や、ららぽーと横浜、横浜・八景島シーパラダイスなど公共施設や商業施設、アミューズメント施設などに26台設置されています(2023年3月現在)。

設置場所検索はコチラ↓



Trim株式会社 代表:長谷川裕介さん

男性が子育て参加する機会が増えていますが、外出先でパパが子供の世話ができる場所はまだまだ少ないのが現状です。パパも利用できるmamaro™の普及に努めています。



パパと遊ぼう!

よこはまこどもカレッジの「名物せんせい」

幼児体育編

幼児体育インストラクター

渡辺健太 先生

小学校5年生から野球を始め、体育大学を卒業後、保健体育科教諭・幼児体育インストラクターに。これまで1000人以上の幼児・小学生に体育指導を実施。「こどもカレッジ」では、とび箱教室、縄とび教室、かけこ教室に加え、野球教室、ゴルフ教室も指導している【運動万能】の先生です!



子ども達に様々な体験を提供している「よこはまこどもカレッジ」。子どもたちを指導してくれている個性豊かな先生を紹介します。

Q. 実は小学生の頃は運動が苦手だったとか?

そうなんです。野球を始めたのは小学5年生と遅かったのですが、その頃は鉄棒の逆上がりもできず、運動が苦手で困っていました。野球もまわりの子の方が断然うまくて、ついていくのが大変でした。

Q. 何がきっかけで体育の先生になろうと思われたのですか?

憧れの体育の先生がいたのです。いつも笑顔で楽しく指導してくれて、自分もそんな先生になれたらな。なので、「笑顔で楽しく」というのが僕の指導のポリシーです。指導が終わった時に子ども達が笑顔でいてくれることを目指しています。運動は楽しく続けることができれば、自然とうまく、技術は向上していくものです。

Q. お父さん、お母さんに伝えたいことは何ですか?

自分は子どもの時に親から「あなたは運動はダメね」ということを言われていました。親から言われてしまうと、子どもは自分はそうなんだと思い込んでしまうものです。繰り返しますが、運動は楽しんで続けることさえできれば、誰でも、それこそ大人になってからでも十分に向上していくものです。ぜひお子さんの可能性を信じて楽しく伸びる環境を用意してあげてください。

横浜のパパが発信!
パパが子育てを楽しむためのコーナーです。



「よこはまこどもカレッジ」公式HP